



竹矢ポンプ場



矢田配水池 築造工事



竹矢ポンプ場 ポンプ室



矢田配水池(6,000 m^3)
満水位標高: 64.00m

「竹矢ポンプ場・矢田配水池築造(第8次拡張事業)」 昭和43年(1968年)～46年(1971年)

昭和38年から42年にかけて、1日最大給水量30,000 m^3 として第7次拡張事業を実施したが、市勢の発展、生活環境の改善などにより、昭和42年の1日最大給水量はすでに30,000 m^3 を突破、全市において水圧は低下、高区及び末端地区では給水困難な状況となっていた。

忌部水系の給水能力は30,000 m^3 が限界であり、かねてから新しい水源を求めてきたが、適地はなく苦慮していたところ、島根県が計画する水道用水供給事業(計画1日最大給水量16,000 m^3)より日量10,000 m^3 を受水することに決まった。

これにより、本市の1日最大給水量は40,000 m^3 、給水人口95,000人に増大するので、これに対応すべく第8次拡張事業計画を策定した。

事業内容は、竹矢ポンプ場、矢田配水池の築造並びに送水管(3,254m)配水管(8,051m)を敷設するものであった。